

# CERADES News

京都産業大学 教育支援研究開発センターニュース

セラデス ニュース

みずんで、うみだす。  
京都産業大学  
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

vol.20  
Sep. 2021



## 学生スタッフに聞く“学び”と“成長実感”

教育支援研究開発センターでは、学生の自発的な活動を支援しています。ひとつは、F工房に拠点を置く学生ファシリテータ（以下、「学ファシ」）です。もうひとつは、今年春から始動したばかりのグローバル commons の「LINK」です。この活動は無償であり、単位も出ない活動です。この度、活動を通じての彼らの“学び”と“成長実感”を語っていただきました。まさに、彼らの語る言葉のなかにこそ、自ら一歩踏み出し、考えそして協働するという社会が求める学生像が垣間見えました。ぜひ、ご覧ください。

### ■学ファシとは

授業やイベント等でグループワークの円滑な進行をサポートする学生スタッフです。授業内でのアイスブレイクの進行や、受講生同士の話し合いのサポートなどを通じて「学生の主体的な学び」を支援します。第11期（活動期間：令和2年10月～令和3年8月）は、様々な学部にも所属する多様なメンバー総勢46名で活動していました。研修や学内の様々な協働の現場での実践を通して、ファシリテーションマインドやスキルを身につけ更に向上させています。

### 協働の現場

- ・初年次向けキャリア形成支援教育科目「自己発見と大学生活」
- ・学部主催「新入生オリエンテーション」など

### ■LINKとは

学生ボランティアスタッフ「LINK」は、今年4月に始動したばかりで、活動目的は、グローバル commons が主催する語学学習・多文化理解に特化したイベントの企画運営を通じて、学生ボランティアスタッフ自身の成長につなげ、他の学生にグローバルマインドを波及させ、ロールモデルになることを目指しています。精力的にイベントを企画運営することで、LINK自身の語学力向上や異文化理解にも繋がっています。

## Contents

p2 <学生スタッフインタビュー①>  
学生ファシリテータ

p3 <学生スタッフインタビュー②>  
グローバル commons  
学生ボランティアスタッフ「LINK」

p4 <FD/SD活動の推進>  
令和3年度新任教員研修会の開催

CERADES Newsは、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、セラデススタッフが企画・取材・デザイン制作している刊行物です。

CERADES（セラデス）は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Supportの略称です。

※写真撮影時のみ、マスクを外しています。

今回、学生ファシリテータ（以下、学ファシ）4名にインタビューしました。

**事務局**：皆さんが、学ファシに応募した動機は何ですか？

**みののん**：何かのコミュニティに入りたいと思ったのと、色々な学部の人と知り合いたくて探していたのが理由です。友達に参加したのも大きかったですね。その友達がはっしーだったんですが（笑）。

**はっしー**：（笑）僕は京都産業大学が第一志望ではなかったんですが、卒業した時にここに入って良かったと思えるようなことをしたかったので、学ファシに応募しました。

**こーじ**：できる限り自分のできることは全部したいという目標を立てて行動していて、何かないかなと思って探していた時、自己発見と大学生活（以下、自己大）を履修していた時に、学ファシの先輩方が楽しくしている姿を見て、応募を決めました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で授業もオンラインとなり、人との繋がりが希薄だったので、繋がりを作ることも魅力的に映りました。

**しोकくん**：言いたいことを皆さんに言われてしまいました、自己大が楽しかったのと大学の楽しさを知って欲しいと思って参加しました。京都産業大学には10学部がワンキャンパスに集まっていて、自己大で自分の所属する学部以外の人と話していくうちに、様々な知見が広がっていて、京都産業大学の楽しさを伝えていきたいと思いました。

**事務局**：学ファシ活動を通じて身に付いた力や意識の変化があれば教えてください。

**はっしー**：元々緊張してしまう性格を直したくて高校の時、生徒会にも参加したのですがあまり直らなかったですね。学ファシになって、先輩学ファシの話方や視線、声のトーンを勉強して、段々と活動していくうちにちょっとずつ自信が出てきて、人前でも緊張せず話せるようになってきました。自己大のクラスも今年は3クラス担当していて、慣れてきたというのもあります。

**みののん**：色々な価値観を尊重できるようになったと思います。高校の頃までは、自分が良ければそれで良いと思っていましたが、色々な価値観を汲み取ることで自分ができることが何かあるんじゃないかなと思えるようになりました。それと、僕自身は学ファシの後輩ができてから変わったと思います。後輩がいなかった頃は、自分が場数を踏んで発表して皆の印象に残ることや褒められることばかり考えていましたが、研修会の時のグループワークで僕以外が新規メンバーだったんですね。そこで後輩メンバーがワークを通じて成長する姿を見て喜びを感じて、これから



インタビューを通じて思いを語る学ファシ4名

は後輩を育てていきたいという思いが強くなりました。

**こーじ**：学ファシとして全体の雰囲気俯瞰して見れるようになってきたのはあります。受講生側だと気づかなかったと思います。もう1つはとても理詰めだったのが、先輩学ファシに「相手の気持ちを汲み取ろうとするようになったね」と言われて、変わったのになって思います。

**しोकくん**：僕は個人的な成長実感になりますが、他の授業のグループワークで先生がファシリテータを募集する時に、オンライン授業で誰もカメラオンにしないで希望者もない、そういう時に自分がやろうと思って一歩踏み出せるようになりました。今まででできなかった。また、グループワークの中で、誰かが上手く説明できないことを「これってこうだよね」ってその意見を纏めることもできるようになりました。



左から、みののん、こーじ、しोकくん、はっしー。

**事務局**：学ファシとして心掛けていることはありますか。

**はっしー**：自己大の授業を笑顔で受けてもらえるように心掛けています。全員出席を目標にしている、オンライン授業なので欠席する学生もいるんですが、出席したいと思えるような授業を作るようにしていて、自分が一番笑顔でいることを大事にしています。

**こーじ**：オフィシャルな学ファシというよりは1番近くにいる先輩になりたいと思っています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で先輩との繋がりが少ないので、そういった時に話せる人を目指しています。ちょっとした会話でも深く入るように心掛けています。そのおかげか、学内や学外でも声を掛けられました。

**しोकくん**：僕も被りますが、キャンパスで話し掛けられる学ファシになりたいなと思っていました。そうしたら、授業が始まって1週間で声を掛けられましたね。キャンパス外でも「しおさーん」って。

**みののん**：もう、京都産業大学の枠を超えても良いんじゃないかなと思っています。似たような活動をしている大学と関わって、自分たちの良さを気づけるんじゃないかなって。それと、学ファシ活動を通じて夢ができたんですけど、卒業しても心は繋がっていて、飲んだり話したりできる関係を続けたいです。

- みののん**： 箕 明伸（経済学部 3年次生）
- はっしー**： 高橋 良輔（経済学部 3年次生）
- こーじ**： 村田 睦喜（現代社会学部 2年次生）
- しोकくん**： 汐田 晴紀（国際関係学部 2年次生）

F工房スタッフからのメッセージ



F工房スタッフ 大島 和美

ファシリテーションを通じて、彼らは他者との関わり方・協働について学び、日々成長しています。また、そんな彼らの姿は、周囲の学生にも学ファシのようになりたいといった良い刺激にもなっているようです。学ファシは授業やゼミだけでなく、学部や課外活動団体のイベント・研修のサポートも行っています。学ファシ派遣やファシリテーションについてのご相談は、ぜひF工房までお問い合わせください！

今回、グローバルコモンズ学生ボランティアスタッフ LINK（以下、LINK）2名にインタビューしました。



インタビューに応じる川島さん（左）と脇阪さん（右）

**事務局**：お二人が、LINK に応募した動機は何ですか？

**川島さん**：以前、グローバルコモンズの学生スタッフとして活動していましたが、新たに学生ボランティアスタッフという形でスタートすると聞いたので、以前の活動とは違う形で関わりたいと思い応募しました。

**脇阪さん**：大学で何かやりたいと思って探していた時に、イベントの企画運営に携われることや異文化学習や交流に関われることが面白そうと思って応募しました。

**事務局**：具体的な活動を教えてもらってよろしいでしょうか。

**川島さん**：私も脇阪さんも同じ企画運営グループで活動していますが、主に新入生を対象とした友達作りを目的としたイベントを企画するグループでした。新型コロナウイルス感染拡大の影響で6月に対面でイベントを実施しましたが、学年を越えて盛り上がりました。

**脇阪さん**：5月は対面でのイベント前にプレイベント（※元々は対面イベントであったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となったため、モチベーション維持のためプレイベントを実施）としてオンラインで顔合わせをしましたが、たくさん喋れて盛り上がりました。

**事務局**：新入生イベント企画にあたって意識した点、苦労した点、良かった点はありますか。

**川島さん**：他の企画グループではディスカッション等をしていましたが、どうやってコミュニケーションを楽しく取れるのかを意識しました。

**脇阪さん**：参加者の反応を見ながらイベントが出来たのは良かったです。難しかったのは集客から考えるイベント自体が初めてだったので、どうしたら興味を持ってもらえるのか、コンセプトを設定したら良いのかといったことが難しかったです。

**川島さん**：参加者がイベントをしながらどうなるのかを想像しながら企画しないといけないことの大変さを実感しました。本当に来てくれるのかな、と思っていたので、実際に参加者が来てくれた時は嬉しかったです。

**脇阪さん**：4月に新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン授業が主流となって、当初予定していた時期が延期となったため、元々参加を希望していた学生さんのモチベーションの低下も心配していましたが、本当に来てくれて良かったです。

**事務局**：今後、LINK でやってみたいこと、挑戦してみたいことはありますか。

**川島さん**：新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインと対面を使い分けてイベントの打合せをしたりイベントを実施していますが、対面には対面の良さ、オンラインにはオンラインの良さがあります。どうしたらオンラインを使って対面の空気感を作り出せるのかを考えたり、逆に対面でオンラインの良さを出すといった挑戦することが大事なので、模索しながらやっていきたいと思っています。



グローバルコモンズには様々な書籍があるよ！

**事務局**：LINKの活動を通じて成長を実感したりしていますか。

**脇阪さん**：色々な視点で物事を考えるようになりました。高校の時は参加することが前提のイベントを考えたことはありますが、LINK は来てもらえるようなイベントを考えないといけなかったのが、一つの視点で考えるんじゃなくて様々な視点から物事を見るようになりました。

グローバルコモンズスタッフからの  
メッセージ



グローバルコモンズスタッフ ペトル

LINK は、楽しみながら語学力を高めたり、異文化理解を深めるイベントの企画・実施に、自ら主体的に取り組んでいます。このような活動を通じて、LINK 自身が成長し、周りの学生にも良い影響を与えるグローバルな人に育ってほしいと願っています。これからも、英語を始め、多言語や異文化に関する様々なイベントを実施しますので、興味がある方は是非参加してください。また、グローバルコモンズでは、学習支援スタッフによるイベントや個別英語学習支援も実施しています。ぜひグローバルコモンズにお越しください。Looking forward to seeing you at the Global Commons!

# 令和3年度新任教員研修会開催

## 第1回

日時 令和3年4月28日(水) 13:15～14:15

場所 ラーニングコモンズ

参加者 教職員 19名

テーマ 教員と学生間の対話の促進

## 第2回

日時 令和3年6月2日(水) 13:15～14:25

場所 オンライン開催

参加者 教職員 17名

テーマ 教員と学生間の対話の振り返り

本学では、新任教員が本学の教育や学生の特徴を理解し、他の教員との対話から気づきを得て今後の授業・教育活動に活かすことを目的として、毎年春学期に2回、新任教員全員を対象とした研修会を実施しています。

今年度の第1回研修会では、春学期に実施する本学の全学的な取組である「教員－学生間の授業に関する対話」をテーマに、本学における対話の重要性とその方法について理解を深めるため、対話の方法やフィードバック、個人が抱える課題やその解決方法等、活発な意見交換が行われました。

第2回研修会では、各教員が春学期に実施した「教員－学生間の授業に関する対話」から得られた情報を持ち寄り、学生からの意見や要望に対するフィードバック方法、学生の反応等について情報共有を行い、各教員の様々な経験を元に日々の講義の中で改善や工夫を重ねている点、講義の進め方、資料の作り方といった技術的な面の他、学生との向き合い方、教育への問題意識等、授業運営や学生との向き合い方を共に考える意見交換が活発に行われました。



## 新任教員から寄せられた感想

- ・ 個々の運営の手法というより、長く教員の立場にある方におかれても、改善のご努力と工夫を継続されている姿勢やスタンスが参考になりました。
- ・ 専任のスタッフがいるセンターが大学内にあり、教育内容や授業改善についてアドバイスや具体的な事例紹介をして頂けるのは非常に心強いと感じました。
- ・ 遠隔講義でのカメラオフの問題など、他の先生方も自分と同様の点で苦慮されていることがわかり、少し安心することができました。
- ・ 学生と教員の求めている授業内容が異なるということは、当たり前であり、それを擦り合わせていくことその過程自体が対話であることをグループワークの中で学びました。

## 参加した先輩教員の感想

- ・ 少人数の科目では、毎回振り返りシートを配り、一人一人にコメントを返しておられる先生もいて、刺激を受けました。
- ・ 前任校のある先生は既に十分なキャリアをお持ちで、むしろ教えていただくことの方が多かった気がします。
- ・ 所属学部がバラバラで、それぞれの苦勞・工夫を共有できたのは良かった。悩みを共有できる点がある一方で、学部の特徴が異なることで、学部や科目特有の悩みなどは解決策を共有することが難しいと感じました。